

進路指導ジャーナル

発行 太高進路部
印刷 東京広告(株)

「始動人への道」

教頭 飯塚 信幸

共通テストも三年目を迎えました。今年もコロナ禍の実施となり、今年も生徒達にとっては悩ましい試験となりました。

受験に挑むためにはしっかりと対策が必要ですが、それは実力を養成する学習だけでなく、感染防止対策を始めとした体調管理、受験科目の確認や受験日程の計画など様々な要素があり、それらをすべてクリアしていかなければなりません。つまり、「合格」獲得には受験生自身の努力だけでなく、周囲の協力や支援が不可欠です。

以前に太田高校で学年を担当した時、当時の三年生に向けた話を紹介したいと思います。

「日本を代表する富士山が、ようやく世界文化遺産に登録されたのは二〇一三年(まだ十年)の六月。富士山の魅力はそれの大きさだけでなく、四季折々に変化していくダイナミックさであり、その雄姿に誰もが圧倒される。遠くから眺めるその神々しさは、煌びやかさだけでなく憧れの象徴でもある。

ただ、そのような最高峰の山々も登るとなれば全く別の話となる。周到な計画や準備はもちろん、体力と気力を充実させ、助けあう仲間(「パーティ」)を組み、一步一步を確実に進めて行かねば登頂はできない。また、登れば登るほど山頂までが遠く、徐々に辛さが増すのを感じる。つまり、誰もが憧れる美しい山ほど登ることは容易なことではない。だからこそ、登頂した時の達成感や安堵感、そこから眺める景色は一生忘れないものになるはずである。さらに、この経験がもたらすものは大きく、より強固な自信が得られるだけでなく、また挑戦しようとする向上心をも生み出す。

高校三年生になり、希望進路の実現(「登頂」)をめざし歩み始めたみんなは、「より高き山の登頂をめざす挑戦者」であってほしい。大学受験を何となく眺んでいる安易なものだと思わないでほしい。外から見れば、大学受験がそれほど難しいとは感じられないかもしれない。ただ、これからは今まで通りに学習しても成績が下がったり、あわてて学習量を増やしてもなかなか成績が上がらないことに気づいていく。そして、焦っても空回りするばかりで解



決するわけではない。今すべきことは、まさに登山と同じ。自分に合った受験計画を立て、基礎学力をしっかりと身につけ、目標に向かって一歩一歩努力を重ねることに他ならない。そしてそれは、決して一人ではできない。家族をはじめ先生方、サポートしてもらい、友人とも助け合えるもの。そこには、信頼や助け合える関係づくりが不可欠である。

そして大学受験の成果は、学力が高まり合格を得るだけではない。厳しい試験を乗り越えることで、大きな自信と逆境への忍耐力が身につくことができる。そして、それらが得られてはじめて忘れぬ合格となるのだと思う。まずそのことを実感し、その経験をこれからの人生に活かしていくほしい。

現在群馬県の教育施策として「始動人」の育成があります。始動人とは、予測困難なこれからの時代に生きていくために、自ら考え新しい価値をつくり出し、周囲と協働して新たな領域で動き出す力を持つ人のことです。

ぜひ、太高生には大学受験という経験が単なる受験勉強のみで終わるのではなく、始動人につながる道となることを期待しています。

令和5年 大学入学共通テストを終えて

進路指導主事 新井 悟

1月14日(土)、15日(日)の両日、コロナ感染症予防対策を講じながら3回目となる「大学入学共通テスト」が全国679会場で開催された。試験1日目は交通機関の遅延などに伴い、橋下や会場周辺の混雑が懸念されたものの、大きな問題や事件・事故もなく、比較的落ち着いた雰囲気の中で試験を終えることができた。また、今年度の受験生は高校入学後4・5月の2ヶ月間自宅待機を余儀なくされた年でもあり、その影響がどの程度のものであったのか、地域差はあったのかなどが気になる試験でもあった。

本校3年生は、昨年と同様、共愛学園前橋国際大学で試験を受けた。他校の生徒も受験していたが、この会場の大半は太田高校生で、周囲には見慣れた顔が並んでおり落ち着いて受験できたものと推察する。また、試験会場には、送迎用の広い駐車場が用意され、コンフィニエンスルームもあって利便性の高い清潔感のある会場であった。2日間とも曇ってはいたものの、群馬特有の空つ風もなごやかな雰囲気の中で、静かに太田高校生の姿が見られた。

試験翌日の月曜日には共通テストを実施した3年生が登校し、自己採点を実施することができた。結果に關しては、悲喜こもももあつたように思われるが、志望大学合格に向けて今やるべきことは何なのかしっかりと見据え、次の一歩を踏み出そうとする姿勢が見られ頼もしく感じた。私立や国立大学の個別試験においても、3年生全員の志望大学合格を願わずにはいられません。最後の最後まで粘り強く、志を高く持って果敢にチャレンジし、目標を達成して欲しいと願っています。

【志願者数は5年連続減少、追試受験生は過去最多】

2023年度共通テストの志願者数は、512,581人となり、前年から17,786人(3.4%)減少した。この減少傾向は5年連続であり、少子化の影響が大きい。内訳を見ると、現役生が1,249,661人(2.8%)の減少、既卒生が5,143人(6.7%)の減少、既卒生の減少が顕著となった。志願者数に占める現役生比率は85.2%と上昇し、現役生中心の入試が続いていると実受験者数を見ると、外国語の受験者数は46,490人(追試前)

令和5年 国公立大学出願状況

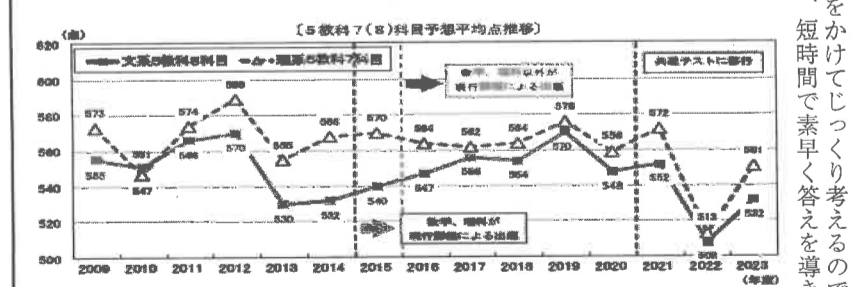
大学名	学部	志願者数	前期	後期	大学名	学部	志願者数	前期	後期
旭川大	医学部	3	1	2	群馬大	共同教育	31	14	17
旭川大	獣医学部	1	1	1	群馬大	工学部	23	10	13
北海道大	工学部	1	1	1	群馬大	理学部	44	16	28
北海道大	理学部	1	1	1	群馬大	農学部	6	4	2
北海道大	農学部	1	1	1	群馬大	経済学部	10	5	5
弘前大	総合理系	1	1	1	群馬大	教育学部	2	2	2
弘前大	総合文系	1	1	1	群馬大	法学部	3	3	3
弘前大	総合社会	1	1	1	群馬大	理学部	3	1	2
弘前大	総合教育	1	1	1	群馬大	工学部	9	1	8
岩手大	工学部	2	2	1	千葉大	工学部	4	2	2
岩手大	理学部	2	2	1	千葉大	工学部	10	6	4
岩手大	農学部	3	3	3	千葉大	工学部	5	3	2
岩手大	経済学部	5	5	5	千葉大	工学部	3	3	3
岩手大	教育学部	5	5	2	千葉大	工学部	1	1	1
岩手大	医学部	5	2	3	千葉大	工学部	1	1	1
岩手大	工学部	9	9	9	千葉大	工学部	1	1	1
岩手大	理学部	1	1	1	千葉大	工学部	1	1	1
岩手大	農学部	2	2	2	千葉大	工学部	1	1	1
岩手大	経済学部	3	3	3	千葉大	工学部	1	1	1
宮城教育大	教育学部	1	1	1	千葉大	工学部	1	1	1
宮城教育大	教育学部	1	1	1	千葉大	工学部	1	1	1
秋田大	教育学部	3	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
秋田大	教育学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
山形大	教育学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
山形大	教育学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
福島大	教育学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
福島大	教育学部	5	5	4	千葉大	工学部	1	1	1
茨城大	教育学部	5	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
茨城大	教育学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
茨城大	教育学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
茨城大	教育学部	8	2	2	千葉大	工学部	1	1	1
茨城大	教育学部	3	3	3	千葉大	工学部	1	1	1
筑波大	社会学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
筑波大	社会学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
筑波大	社会学部	6	5	1	千葉大	工学部	1	1	1
筑波大	社会学部	1	1	1	千葉大	工学部	1	1	1
筑波大	社会学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
筑波大	社会学部	1	1	1	千葉大	工学部	1	1	1
宇都宮大	社会学部	3	3	3	千葉大	工学部	1	1	1
宇都宮大	社会学部	2	2	2	千葉大	工学部	1	1	1
宇都宮大	社会学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1
宇都宮大	社会学部	2	2	1	千葉大	工学部	1	1	1

1) 出願資格別志願状況

区分	志願者数		比率		人数	増減
	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度		
現役生	436,873	449,369	85.2%	84.7%	-12,496	-2.8%
既卒生	71,642	76,785	14.0%	14.5%	-5,143	-6.7%
認定試験合格者等	3,316	3,427	0.6%	0.6%	-111	-3.2%
その他	750	786	0.1%	0.1%	-36	-4.5%
合計	512,581	530,367	100.0%	100.0%	-17,786	-3.4%

2) 男女別志願状況

区分	志願者数		比率		人数	増減
	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度		
男	281,996	293,050	55.0%	55.3%	-11,054	-3.8%
女	230,585	237,317	45.0%	44.7%	-6,732	-2.8%
合計	512,581	530,367	100.0%	100.0%	-17,786	-3.4%



【共通テスト】主要科目別平均点差

科目	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
国語	58.4	58.4	58.4	58.4	58.4
数学	58.4	58.4	58.4	58.4	58.4
英語	58.4	58.4	58.4	58.4	58.4
理科	58.4	58.4	58.4	58.4	58.4
社会	58.4	58.4	58.4	58.4	58.4

【志願者数は5年連続減少、追試受験生は過去最多】

2023年度共通テストの志願者数は、512,581人となり、前年から17,786人(3.4%)減少した。この減少傾向は5年連続であり、少子化の影響が大きい。内訳を見ると、現役生が1,249,661人(2.8%)の減少、既卒生が5,143人(6.7%)の減少、既卒生の減少が顕著となった。志願者数に占める現役生比率は85.2%と上昇し、現役生中心の入試が続いていると実受験者数を見ると、外国語の受験者数は46,490人(追試前)

【志願者数は5年連続減少、追試受験生は過去最多】

2023年度共通テストの志願者数は、512,581人となり、前年から17,786人(3.4%)減少した。この減少傾向は5年連続であり、少子化の影響が大きい。内訳を見ると、現役生が1,249,661人(2.8%)の減少、既卒生が5,143人(6.7%)の減少、既卒生の減少が顕著となった。志願者数に占める現役生比率は85.2%と上昇し、現役生中心の入試が続いていると実受験者数を見ると、外国語の受験者数は46,490人(追試前)

